

輪島市まんなか商店街振興組合 第1回まち塾(まちなか商店学習塾)

高校生と一緒にまちと仕事を考える 食のプロたちが挑む「輪島の賑わいづくり」 ——ラトリエ・ドゥ・ノト

将来、輪島で仕事をして暮らし、まちを盛り立て、商店街の消費者になる高校生を対象に開催。職業体験や食のプロたちのお話をとおして、住むまちの仕事を知り、キャリア形成に役立ててもらうことを目的としました。

塾長のお話「店名にこめたふるさとへの思い」に続き、神経締め技術で魚の鮮度を保ち、付加価値を高める漁師・東野さんが登場。模型を使って技術や加工品製造を紹介しました。二人は若者たちが「輪島の宝」であることを強調。一度外の世界を見てから、ぜひ輪島に帰ってきてほしいと呼びかけました。

厨房で高校生が下ごしらえした食材は塾長によってフレンチの一皿に変身。高校生たちは初めての本格フレンチを体験しました。

【開催してみた】

- 店名の意味(能登のアトリエ)が伝わった。
- 高校生以外から参加希望があった。
- 厨房での体験時間が足りなかった。

【成果のポイント】

- マスコミに取り上げられ、話題になった。
- お店の考え方が紹介されたことが採用活動につながった。19歳男性をアルバイト採用。管理栄養士の40代女性も就職を希望。課題(人材獲得)が解消されつつある。
- 某社から金沢開催の誘いがあった。
- 常連さん(リピーター)の来店があった。
- バレンタイン予約を外して開催することで、当店の独自性と姿勢が伝えられた。

